

9. 関係機関ヒアリング

9－1 金属片の由来に関する関係機関の
調査結果等

金属片の由来に関する関係機関の調査結果等

1. 愛知県の事例

平成17年6月3日 愛知県建設部道路維持課からの聞き取りにより、金属片は車の一部であった事例が判明

①事故発生日時 平成15年8月8日午後

②事故発生場所 愛知県豊川市馬場町

(主要地方道東三河環状線上【愛知県管理】)

③事故内容 ガードレールの継ぎ目に金属片によって、自転車に乗った通行者が重傷を負った。

④警察の鑑識結果

金属片は乗用車の鉄板と判明。(車体のどの箇所かは不明)

2. ホットラインステーションへの情報提供の事例

10年ほど前、1車線道路の山道を30km/h前後で走行中、右側ドアをガードレールとほぼ平行に擦った。車を止めて確認したところ、ドアが三角形に剥ぎ取られていた。ガードレールを確認したところ剥ぎ取られたドアが継ぎ目に挟まっていた。取ろうとしたが中々取れなかったことを良く覚えている。

3. 自動車板金業等からの情報提供の事例

6月6日に「社団法人日本自動車整備振興会連合会」及び「日本自動車車体整備協同組合連合会」に調査協力を依頼。6月8日までの報告として、調査対象として選定した574事業者のうち、96事業者で過去に入庫ありとの情報。その後約1ヶ月の間で、宮城県(3件)、沖縄県(1件)、長崎県(1件)で金属片を剥ぎ取られた又は剥ぎ取られたと思われる車両を扱ったとの情報あり。

4. 自動車保険会社からの聞き取り

- ・調査員として20年以上現場を担当したが見たことがない。社内の他の調査員にも聞いたが同様であった。
- ・自動車の外板は0.6~0.8mm。輸入車の外板は0.8mm程度、厚くても1mm程度。トラックの外板は0.8mm~1.0mm程度。
- ・ガードレールの高さを勘案すると、トラックではないと思われる
- ・メカニズムについてはフェンダー部分をガードレールに押しつけながら進み、ドア部分とフェンダー部分に段差が生じて、ドア部分の金属片が剥がされ刺さり込むと思われる。
- ・車両が原因であれば、ガードレールに傷は必ず残る。肉眼ではなくルーペを用いるとよいと思われる。
- ・当社に持ち込まれる事例はあるが、稀である。

5. 自動車メーカーからの聞き取り

【乗用車・トラックとも0.65～1.0mm程度の板厚を使用】

板厚	フェンダー部分	0.65～1.0mm
	ドア部分	0.65～1.0mm
	トランク部分	0.65～1.0mm